

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-99

学校名・団体名	坂出市立林田小学校
HPアドレス	http://www.sakaide.ed.jp/hayashida/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「ふるさと林田の町とわたしたちの夢・未来」
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では、「思いや願いをもち、主体的に探求する力」「知識や技能を活用する力」「他者と協同し、創造的に考える力」「自分を見つめ、地域に働きかける力」を育みたい資質・能力と設定し、総合的な学習の時間を中心に価値ある地域教材を核とした単元の開発に取り組んできた。そして、主体性を育む探求的な学習や創造性を育む協同的な学習を大切にしてきた。</p> <p>6年生では、「ふるさと林田の町とわたしたちの夢・未来」をテーマに林田町の農業に視点をあて、地域の特産物のよさや生産活動の様子を調べる学習をすることとした。そして、さぬきの夢2000（小麦）やさつまいもを調べ、特産物の商品化に挑戦することを通して、</p> <ol style="list-style-type: none">①「地域の人にその商品を味わってもらいたい」という相手意識や目的意識を明確にした体験活動を試みる。②商品化で、問題となる点を改善するために、商品の試作をして情報収集や整理分析を行い、見通しのある活動をつくる。③地域ボランティアとの協同的な活動や支援のもと、商品化する喜びを味わうとともに、地域のよさを感じる。 <p>ことをねらった。これらの経験が、自分自身の将来へのあこがれや志をもつ基礎となり、子どもたちは、夢をもち学び続けることができるであろう。</p>	

1 活動時期

4月から「わくわく学習」(総合的な学習の時間)に、ふるさと林田の町についてその現状や課題を見つめ、課題から解決方法を考える。また、林田の町を元気に笑顔にする活動を実践していく。そして、3月に1年間の活動実践を新聞にまとめる。

2 活動内容

月	内 容	月	内 容
4	・「林田町を元気に笑顔にするために自分たちに何ができるか」について話し合い、計画を立てる。	10	・さつまいも・カボチャの収穫をする。 ・学習発表会の計画を立てる。林田商店街をすることを決定する。 ・収穫した、小麦・さつまいも・カボチャを使った料理を調べ、各グループで考えた、料理の試作品作りをする。
5	・農業、歴史探訪の2つの視点から活動することを決定する。 ・地域ボランティアの方々と一緒にさつまいものつるさしとカボチャを植える。	11	・地域のうどん作り名人にアドバイスを受けながらうどん作りに取り組む。 ・学習発表会で、林田堂商店街を開催する。林田堂商店街では、カボチャとさつまいもを使ったスイーツとうどんを販売する。
6	・地域ボランティアの方と一緒に栽培したさぬき夢2000(小麦)の収穫をする。	12	・林田堂商店街の振り返りと収支決算報告会をする。
7	・林田町にある史跡調べをする。	1	・林田町の史跡についてまとめ、本を制作する。
8	・いもとカボチャの水やりをする。 ・林田町にある史跡の現地調査をする。	2	・各グループに分かれて、1年間のまとめを話し合い、新聞を制作する。
9	・農業体験をもとに、地域ボランティアの方に林田町の農業についてインタビューする。	3	・新聞を制作し、地域に発信する。

3 成果

○ 思いや願いをもち、主体的に探求する力【主体性】

この活動で児童は、様々な経験をする事ができた。グループの友だちと試行錯誤し、協力しながらあきらめることなく成功させることが重要である。また、失敗を経験することで、新たな課題を見つけ、それを解決しようとする、新たな意欲と主体性が湧いてくる。そして、目標に向かって一つのを共に創り上げていこうとする仲間が存在が大きいと考えられる。そのことによって、全員が「より良いもの」を作るという目標を目指して、互いに頑張っている気持ちを感じとる雰囲気、子ども同士にもよい影響を与え、自己の成長につながっていた。これらの経験が、自分自身の将来へのあこがれや志をもつ基礎となり、夢をもち学び続けることができる力の育成につながった。



<林田商店街の活動>

○ 知識や技能を活用する力【活用力】

調べたことについて伝えるための資料づくりには国語科での学習内容を活用する。国語で学習した「言葉の力」の手法を取り入れた。常に観念に沿って活動できるようにするために、発表カードを作成し活用することで、児童が主体的に資料を作ったり、説明の練習をしたりすることができた。また、このカードを活用し常に自分自身で活動を振り返ることができていた。



<各グループの発表>

○ 他者と協同し、創造的に考える力【協同性、創造性】

うどんの商品化にあたり、試作品作りをしながら子どもたちと共に活動を行った、地域ボランティアの存在は大きかった。何度試作品が失敗しても、常に子どもたちに寄り添って一緒に活動してくれた。地域ボランティアの方々のアドバイスと励ましの言葉が、子どもたちにとって主体的な活動につながった。地域ボランティアとの協同的な活動や支援に支えられ、失敗してもあきらめずに、前向きに考えることができた。



<地域ボランティアとの協同的な活動>

○ 自分を見つめ、地域に働きかける【自己評価力】【実践力】

各自、振り返りカードを活用し1時間ごとの自分の姿を振り返った。これにより、活動全体の流れが分かりやすくなり、次時にすべきことの見通しを立てることができた。また、友だちと一言を書き合い、自他のよさを認め合うことで、自己有用感が高まり、自分の生き方を考えることができた。